

産学連携フェア2026

GIFU UNIVERSITY



参加
無料

11/27 金
13:10~

会場 OKB岐阜大学プラザ 1階
プレゼンテーションエリア

主催：東海国立大学機構岐阜大学 産学官連携推進部門、岐阜大学協力的会 後援：名古屋大学協力的会

要事前申込み

11/17 火 まで

右記「二次元コード」より
簡単にお申し込み
いただけます。



1部

13:10▶14:50

産学連携フェア2026 研究紹介

「産学連携の拡大を推進し、研究成果の社会還元により地域社会での新たな価値創造をめざす」

挨拶 国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学 学長 吉田 和弘

電気自動車は社会を救えるか？

～普及の障壁と、非常時の電力源としての可能性～

社会システム経営学環 教授 嶋本 寛

協働の場としての農業・農村

～その多様性に学ぶ～

高等研究院 環境社会共生体研究センター 准教授 西原 是良

牛舎の微生物リスクの可視化と乳房炎予防

～バイオエアロゾル解析を活用した衛生管理～

応用生物科学部 食農生命科学科 助教 侯 建建

熟練技術者の“勘”をAIでモデル化する

～ものづくり現場の経験知の定式化～

工学部 社会基盤工学科 准教授 柴山 淳

資源循環に向けたプラズマ触媒反応の開拓

～短ギャッププラズマと電解析出触媒の融合～

工学部 化学生命工学科 助教 中村 天彰

2部

15:00▶16:20

岐阜大学協力的会 特別講演会

挨拶 岐阜大学協力的会会長(株式会社ナベヤ代表取締役社長) 岡本 知彦

講演テーマ 地方から、まだない産業をつくる。

— 中小企業とスタートアップが変える、これからのものづくり —

講師 Spacewasp株式会社 代表取締役／一級建築士 伊勢崎 勇人氏 (いせざき はやと)

略歴

建築設計を起点に、デジタル技術を活用した新しい建築・製造のあり方に取り組む起業家。
建築設計、建設3Dプリンティング、AI・デジタル設計、植物由来素材、循環型ものづくりなどの領域で複数の事業立ち上げに携わり、NoMaDoS、Polyuse、Spacewaspを創業。
現在はSpacewasp株式会社にて、地域で発生する植物由来資源を独自素材へ転換し、AIによる設計と大型3Dプリンターなどのデジタル製造技術を組み合わせることで、壁・床・天井・家具などの建築・内装を地域で自動製造する仕組みの構築を進めている。
材料、設計、製造、施工、回収・再利用までをデジタルでつなぎ、「建築をどこで、誰が、どのようにつくるのか」という産業構造そのものを再設計することを目指している。
著書に『建築革命家たち』『なぜ人類は植物に育てられたのか？』『2030年の建築設計者』、NoMaDoSとして『アニメオタクの一級建築士が建築の面白さを徹底解剖する本。』など。



3部

16:30▶17:30

産学官交流会



MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構



岐阜大学

産学連携フェア2026



MAKE NEW STANDARDS
東海国立
大学機構



1部

産学連携フェア2026 研究紹介

電気自動車は社会を救えるか？

～普及の障壁と、非常時の電力源としての可能性～

社会システム経営学環 教授 嶋本 寛

電気自動車(EV)の普及はカーボンニュートラル実現や災害時の電力供給源として期待されている一方、充電インフラの不足や充電時間の長さが普及の妨げとなっています。さらに、EVの増加による電力需要の増大は、電力需給逼迫という新たな課題も生じます。数理モデルを用いて、これらのEVの課題や可能性を評価した結果について報告します。

協働の場としての農業・農村

～その多様性に学ぶ～

高等研究院 環境社会共生体研究センター 准教授 西原 是良

中山間地域の多い岐阜県で、農業・農村を「協働の場」として生かすには何が必要でしょうか。農業経済学の立場から、関連業界団体との国産二条大麦研究や食品企業との中山間地ゆず生産研究、学生のフィールドワークなど地域との協働を紹介します。所属する環境社会共生体研究センターの活動も含め、皆様と地方創生について議論できれば幸いです。

牛舎の微生物リスクの可視化と乳房炎予防

～バイオエアロゾル解析を活用した衛生管理～

応用生物科学部 食農生命科学科 助教 侯 建建

牛舎の空気中を漂う微生物(バイオエアロゾル)や、粉じん・牛床・乳頭表面・乳汁中の微生物を培養法とDNA解析で調べます。乳房炎原因菌や薬剤耐性遺伝子の分布を温湿度・換気等の環境データと合わせて解析し、微生物リスクを可視化します。乳房炎リスクの早期把握と予防に役立つ衛生管理技術の構築を目指します。

熟練技術者の"勘"をAIでモデル化する

～ものづくり現場の経験知の定式化～

工学部 社会基盤工学科 准教授 柴山 淳

「熟練技術者の経験に基づく判断を、データに基づく機械学習モデルとして表現できないか？」この問いを、コンクリートの配合設計を題材として検討しています。現場に蓄積された記録から経験知を抽出しモデル化する方法と、そこから見えてきた技術的な課題について紹介します。

資源循環に向けたプラズマ触媒反応の開拓

～短ギャッププラズマと電解析出触媒の融合～

工学部 化学生命工学科 助教 中村 天彰

プラズマは、常温・常圧でCO₂などを反応させられることから、資源変換への応用が期待されています。短ギャップ化によって電極表面の寄与が大きくなる特徴を生かし、電極上に多様な触媒を直接形成できる電解析出法を組み合わせることで、CO₂還元・メタネーション、アンモニア分解・合成への展開を進めています。

2部

岐阜大学協力会 特別講演会

地方から、まだない産業をつくる。

— 中小企業とスタートアップが変える、これからのものづくり —

Spacewasp株式会社
代表取締役／一級建築士 伊勢崎 勇人氏

AI、ロボット、3Dプリンティングなどの技術によって、これまで大きな組織や多くの専門人材を必要としていたことを、小さな企業やスタートアップでも実現できる時代になりつつあります。

私は建築設計の仕事からスタートし、その後、建設3Dプリンティング、デジタル設計、植物由来素材など、既存の建築産業にはなかった新しい領域で複数の事業づくりに取り組んできました。しかし、その道のりは決して一直線ではなく、技術開発、事業化、資金、人材、企業との協業など、多くの失敗や方向転換の連続でもありました。

本講演では、起業に至った経緯や、これまで直面してきた課題、現在Spacewaspで取り組んでいる「AI・地域資源・デジタル製造を組み合わせ、建築のつくり方そのものを変える」という挑戦を紹介します。

その上で、地域の中小企業が持つ技術・設備・人材・顧客・信用と、スタートアップや大学が持つ新しい発想・研究・技術・スピードを、どのように組み合わせることができるのかを考えます。

新しい事業は、必ずしも大きなアイデアから始まるものではありません。目の前の違和感や課題に対して、小さく実験し、失敗し、修正していくことから始まります。既存企業にも、これから社会に出る学生にも、新しい産業を「使う側」ではなく「つくる側」になる機会があります。地方だからこそ持っている資源や技術を生かしながら、岐阜から次の産業を生み出す可能性について、現在進行形の挑戦を交えながらお話しします。

参加ご希望は下記URLもしくは二次元コードより**11月17日(火)**までにお申込みください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/ke2c3ZnqeX>

URLにアクセスできない場合はメールでもお申込みいただけます

氏名、会社名、部署、電話番号を記載いただき、学術研究・産学官連携推進本部(sangaku@t.gifu-u.ac.jp)に送信ください。



【会場案内図】

公共交通機関を利用した場合

- JR名古屋駅からJR岐阜駅まで新快速で約18分
- 駅前からは岐阜バスの
岐阜大学・病院線をご利用ください
- JR岐阜駅⑨番乗り場、名鉄岐阜④⑤番乗り場

